

広報 **ながはま** 4月号



この道

「シイタケはことしがダメなら来年、この春ダメならこの秋にと期待がつなげるからいいですね」という増田成虎さん(五十一)―豊茂。昭和九年に父・虎義さん(現在七四)が始めて以来一年たりとて休まず続けているというから、みっちりもう四十三年。当時、成虎さんは小学三年生。そして成人するしないうまでもなくいつしかすんなりこの道。そして今ではその長男、勝利さん(二七)がすんなり後継に着いてがんばっており、これが何よりの生きがい」と両親を喜ばせている。

ここでもやはり家族の和が経営の安定、暮らしの豊かさを感じさせている。



「警察だよりの時間です」

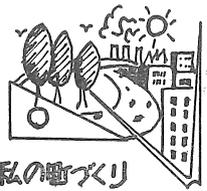
…おまわりさんアナ 有放で活躍

このところ毎週水曜日になると有線放送電話から「交通ルールを守りましょう」「スピードは控え目にしましょう」「お出かけ前には戸締りを」と、事故防止、防犯を専門に男性アナウンサーの放送が流れ、「なかなかよいアドバイスだ」「男の人の声なので注目する」などと、ちょっとした話題になっている。

この人、「警察だよりの」という番組名の通り、長浜警察官派出所から直々に出演頂いている河野由敬巡査(四七)。「事故防止や防犯と取り組む上でも広報活動は極めて重要」と実践に移している極めて熱心なおまわりさん。「派出所でも広報紙などを発行しているが、この町には速報できる便利な有線放送があるので参加させて頂いた」ということ。専門アナ顔負けの慣れたアナウンスでこの番組ももう三十四回を数え快調に続いている。

一口に「放送する」と言っても大抵の人はマイクの前はニガテ。そこは情熱でカバーといわんばかりの河野さん。私たちが安心して暮らせるよう、いつまでも続けてほしいですね。

【写真は交通安全を呼びかける河野由敬おまわりさんアナウンサー】



私の町づくり

田舎がいやで都会に就職して行った人の中にも、いつしかふるさとで暮らしたいと思う人も多いと思う。しかし、結論は決って「帰っても仕事が現実である。帰って来にくい理由にもう一つ、仕事が続かないから帰って来たと思われるのがいやだ、といった風潮もある。私は、まずこういった課題を一日も早く改めてゆくことが今、この町で望まれている町づくりの最大のテーマだと思う。すなわち、ふるさとで暮らしたいと思っている人を十分に受け入れられる物心両面の態勢づくりが必要であり、新しい技術や知識を身につけた人たちが大学を出た人々など

受入れ態勢整えよう

今こそ景気回復時への備えを



後藤 菊博
(20歳)
今坊・漁業

が仕事のできる場所をつくり、若者が中心となって働ける活気ある町づくりを積極的に進める必要があると思う。長浜町は国道が通って交通の便もよくなりつつあり、埋立でもできて工場もできているこのとき、このチャンスを生かし発展の根幹をなす人口の増加を図る必要があると思う。人口がふえれば需要も必然的にふえ、品物も金も動く。しかし今のままであると、近いうちに経済が回復し景気がよくなってもそれは一歩も二歩も後手後手の施策となる。景気がよくない今こそ経営の改善をしようとする人や新たに始めようとする

人たちに融資などによる援助をしており、景気の回復とともに軌道にのるようすすべきだと思う。

ところで、私の職業である漁業も長浜町にとつては重要な産業の一つであるが、農業と同じく後継者不足に悩んでいる。漁業者は特別視され、結婚なども敬遠されがちだ。これも都市中心、工業中心となつてしまった高度経済成長政策の副作用であり、これを一日も早く改善してゆく政策を強く進めてゆかねばならないのではと、後継者の一人として強く感じる。

漁船のプラスチック化、エンジンの新型化、漁法の大規模化など漁業も日ごとに変化しつつある。この現実に対応できるように融資の充実、漁港など漁業設備の充実を図り、漁業振興のための総合的な取り組みをも進めてゆかねばならないのではないかと考える。

5月17日に

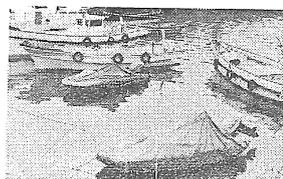
小型船舶操縦士の試験

町体育館で

船体の長さが十二歳以内のエンジン付きの船は業務用であれ、娯楽用であれ五十年十一月から「小型船舶操縦士免許の試験」に合格しなければ操縦できなくなっております。そこで今年も長浜町で出張試験が次の日程で行われますので、ご希望の方は受けてください

●とき 5月17日(火) 時刻は未定

●ところ 長浜町体育館



事前の講習会受講のことや申込み書提出のことは、役場の農林水産課へご相談ください

なお、この免許試験を受ける場合、事前に講習を受けなければ受検できないと思われ違いをされている方がありますが、これは誤りで独学でも直接受検できます。

× 放置された不審な ×
× 飲食物は警察へ ×

ご承知のように東京や大阪では青酸入りコーラ、青酸入りチョコレートなどによる殺人あるいは殺人未遂事件が発生しています。この種の事件、事故は今後も続発が予想されますので、次のような点注意とご協力をお願いします。

●路上、公衆電話ボックス、自動販売機などに放置された飲食物は絶対に飲食しないこと

●不審な飲食物を発見した場合はすぐ最寄りの警察に届けること

2月の水道被害なんと835か所

外部露出管には防寒を

この冬は町内でも異常寒波による水道施設の被害が続出、三十二年ぶりともいわれる大雪の降った二月十四、十五、十六日を中心に、公共水道施設の被害分だけでも二月二十五日現在で給水関係（家庭へ引かれている水道管などの破れつなど）が六百四十六か所、取水・導水・送水関係四か所、その他（メーター器破損など）百八十五か所の合計八百三十五か所、金額にして約三百六十万円もの被害があったほか、個人施設の家庭用ポンプなどもかなりの被害が出、町内の水道業者や役場水道課ではこれらの復旧に昼夜フル回転で対処、それでもさばき切れず三月にまで及んでテナテコ舞いするありさまでした。



外部に露出していた水道パイプはほぼ全めつご覧の通り水道メーターのガラス板も粉々

むろんこの被害で一番困ったのは被害当事者ですが、最も多かった水道管の破れつ被害を見てみると特に寒さが厳しかったことはさ

町内の高 86%が町外へ

町では、ことしも長浜高校をはじめ大洲、松山、八幡浜地域の十一の公私立高校をこの春卒業した長浜町内出身者の就職状況を、卒業前の二月二十日現在で調べてみました。

それによると調査した二十一校を卒業する長浜町内出身の生徒は二百四十三人で就職予定者が百二十二人（五〇割）進学予定者百一十一人（五〇割）

に備えて、次の点などを参考に施工をしておいて頂きたいと思ひます。

防寒対策

①外部に露出している水道管は布、ナワ、フェルト、コモなどを巻きつけて保温し、さらにその上をビニールなどで覆って保温材がぬれないようにしてください。バルブやポンプなども防寒を。

②木造建物など乾式構造で外壁中に配管する場合もすべて防寒措置を行ってください。また、今後

町内へは17人、欲しい働く場所

町では、ことしも長浜高校をはじめ大洲、松山、八幡浜地域の十一の公私立高校をこの春卒業した長浜町内出身者の就職状況を、卒業前の二月二十日現在で調べてみました。



長浜高校では11人が町内へ就職を希望（写真は卒業式を終えしむ長高生）

と半々になっており、就職地域については町内（家事を含む）が十七人で就職者総数の一四割、県内（町内を除く）が六十四人で五二割、県外が四十一人で三四割という結果が出ています。相変わらず町外に流失してゆく若いエネルギー、この若者の

ことしは197人 児童少なくてふえる複式

この春、町内九つの小学校に入学する児童総数は、昨年より十五人多い百九十七人で、男子が四人少ない九十九人、女子が十九人多い百二人の見込みです。

学校別では、左表の通りで、昨年表に比べては長浜小が十二人ふえたほかは一人から四人までの範囲の増減となっていること、戒川小では昨年の一人に比べてことしは四人となっており、数字は小さいものの大幅な増加となっているのが特徴です。

また、入学と卒業による児童数

コンクリート造り建物の内部に配管する場合は、内外面ビニールラッピング鋼管を使用してください

③地下に水道管を埋設する場合は、できる限り深く埋設してください。

水道管が破れつした場合

まず「止水せん」を締めて水を止め、破れつした部分に布かテープをしかりと巻きつけて応急措置を

カンパレ新入学生

ともあれ、入学式は四月八日。新しいランドセルを背に通学するかわいいな見られることと思ひますが、入学児が元気で安全に明るく通学できることを願って、皆さんの温かいはぐくみをお願いします。

置をしておいて指定工事店に修理を申し込んでください。

凍って水が出ない場合

凍っていると思われる水道管などに布をかぶせ、その上にゆっくとぬるま湯をかけて溶かしつます。急に熱湯をかけて水道管やジャコが破れつすることがありますので注意してください。

町内小学校の52年度の入学状況
および生徒総数

学校別	新入児童生徒数			全生徒総数
	総数(前年比)	男	女	
長浜	96(+12)	43	53	487
喜多灘	11(0)	5	6	69
櫛生	16(+2)	9	7	100
出海	13(-2)	8	5	71
大和	25(+3)	13	12	110
豊茂	10(-4)	6	4	66
白滝	14(+1)	5	9	89
戒川	4(+3)	1	3	23
柴	8(0)	5	3	40
合計	197(+15)	95	102	1,055

町内中学校の52年度の入学状況
および生徒総数

学校別	新入児童生徒数			全生徒総数
	総数(前年比)	男	女	
長浜	216(+1)	100	116	610
出海	19(+3)	9	10	53
合計	235(+4)	109	126	663

「地域総合教育」。なんだかこむずかしいことばですが、私たちの町ではこのことばのもとに家庭教育、学校教育、社会教育の結びつきを大切にした教育をすすめてゆく取り組みが展開されています。そして教育のほんとうのねらいである人間性、社会性豊かな人づくりをめざしています。今、初めてこのことばを知ったあなたも、まだなんにも知らないその人も、みんなでいっしょに考え実行してゆこうというものです。すでにこのための行事などに参加されている方には不要と思いますが、そうでない方のために昭和五十一年度からスタートしたこのことの経過を紹介し、町内の皆さん全員に認識をさらに深めて頂くことにしました。

人間性・社会性を 取りもどそう

□総合教育はなぜ必要か

まず、地域総合教育とは何だ、なぜそんなものが必要なんだーということですが、それを一口に説明することは見当りません。そこでその例を仮りに現代の青少年像問題に当てはめて説明しますと、

現代の青少年は一方で明朗であり合理的なもの、の考え方、自己主張に積極性を示す反面、自分中心的、場当りの前後を考えない面があり、自分の判断力や実行力、社会的な連帯感や使命感がとほしく、無気力、無関心、無責任、無感動の傾向がある。などといわれています。そしてこのような青少年が現在において、また未来の社会を背負ってゆくことに対して、私たちはいつからか大きな疑問と悩み、そして不安を抱えています。

現にその不安と言われる現象は仮りに近年の事件や事故と呼ばれるもの、原因一つを拾い上げてみても都会、田舎を問わずではっきりその体質から始まっていることは、当然あなたも認識されていることだと思います。では、一体このような青少年の体質を生んだ原因は、なんであり、

どこにあるのか、そこにメスを入れ追求してみると、やはりそれは教育のあり方に一貫性がない、すなわち家庭、学校、社会における教育のあり方がバラバラであるところ、にあり、決して青少年本人だけの責任によるものではなく大人、言い替れば家庭の環境、社会の環境にも大きな原因があるということになってくることは、だれしもおわかり頂けることと思います。さらにこの青少年にみるような体質は現代の大人の世界でも同じような傾向にあり、前の八幡浜教育事務所長・近田宣秋さん



なくなっているわけですから、ど

積極的に研究、認識深める

52年度からいよいよ実行に

さて、それではこれをすすめてゆくにはどうするか、ということになります。この地域総合教育の推進は町内住民の盛り上がりです。すでに五十一年度からスタートされておき、各種団体や機関などの代表二十六人の委員で構成された「推進委員会」と、一校区当り四人の代表による全町四十人の委員で構成された「実行委員会」を推進母体として、五十一年度は「総

合教育の必要性を認識する段階」五十一年度からは「実行段階」という計画で積極的な取り組みが展開されています。

五十一年度中の取り組みの状況を見てみますと七月、九月、十一月には推進委員会が開かれ、推進の方法などのきめ細かい検討が行われており、ここで総合教育推進のための研究課題として「たくましい青少年を育てよう」「おやじ

社会のつながり大切に で豊かな人づくり



(現大洲市長)の講述のことばから抜粋してみますと「現状は自律神経も働かなければ消化も不良というわけで、自分の課題として健全に地域をつくり上げてゆこうとする力が働かなくなってきた。これが他の部面、すなわち教育、政治、経済の部面でも同様か

たくましい青少年を育てよう

おやし・おふくろの味を強めよう

ふるさと長浜を見直そう

家庭～学校～ 総合教育



・おふくろの味を強めよう」「ふるさと長浜を見直そう」の三本を打ち出し、これを柱として取り組みをしてゆくことが決められています。また、十月には白滝公民館を会場に、町内の学校の先生約八十人が集まって総合教育講演会が開かれ、学校教育と家庭・社会教育との結びつきがあり方を重点に研究。さらに十一月には町体育館に町内の各種団体や機関および一般の人約百人が集まって地域総合教育研究会が開かれ、三つの研究課題をテーマに熱心な話し合いが行われています。

また、今年には一月に研究課題別実行委員会が町体育館で開かれ、地域総合教育研究会での意見をもとに、何をどのように実行してゆくかのおおまかなことが打ち出されており、さらに毎年開催されている公民館の地区別研修会を一月から三月にかけて各地区で開催、先の研究課題別実行委員会でも打ち出されたおおまかな実行事項をさらに地域に合ったもの

にかみ砕いてゆく話し合いが行われており、その結果はさらに三月二十七日に開かれる公民館研究会に持ち込んで実行配分、すなわち自分たち自身で実行してゆくこと、地域で実行してゆくこと、行政機関でやってくることなどの配分、調整が行われ、いよいよ五十二年度の「実行段階」にはいってゆくことになっていくわけです。

以上のように、教育の見直しというべき観点で積極的な取り組みが行われてきていますが、このうち、地域総合教育研究会での意見の一例を紹介しますと、テーマ「たくましい青少年を育てよう」では、子どもを育てる上では厳しさがほしい。青少年の勤労についても問題が多い。肉体的にも弱い子が多い。格好よさを好

んで真のたくましさがない。物や仕事をすぐお金に換算する子が多い。物を大切にしない。男は男らしく女は女らしく。テレビから子どもを取りもどそう。子は親の姿を見て育つ。子どもの遊びに制限や禁止が多過ぎる。など、そのほかいろいろ。また、テーマ2「おやし・おふくろの味を強めよう」では、学校教育、家庭教育の中でも知育だけでは望ましい子は育たない。ものわかりのよいおやし・話せるお母さんだけではだめ。祖父母と別居の核家族では人間は育たない。苦勞を共にする姿が必要。現代の子どもを論ずる前に親の風潮そのものにも大きな欠陥がある。特に中学生くらいの子は、注意をしても注意を受けているという実感があるのだろうかと思われる。叱られる体験の少なかった欠点のあるまま育った子どものありさまについて若い親も話し合おう。など、そのほかいろいろ。テーマ3「ふるさと長浜を見直そう」では、郷土の芸能や遊び、歌などの保存と伝承に努めよう。町の魅力を持たせることが必要。自然の美しさの魅力をこわさないようにしよう。地域の行事で忘れられているもの、よさを知らせてあげても大切。大学進学の実績を上げて魅力ある高校を、そのほかいろいろ。

以上のような問題点などが盛りたくさん出され、いずれもさらに深くつっ込んだ話し合いが行われました。また、これらの意見をどう集約して実行に移してゆくかその基本的な方針を打ち出すための研究課題別実行委員会では、「たくましい青少年を育てよう」では、学校は新しい教育課程の実施に際し、学校運営の中にこれらを生かしてゆくよう検討を加えて着

実に実行に移すようにする。PTAでもさらに検討を加えて各単位の実行を充実するようにする。愛護班活動もこれらの視点を踏まえて対策を練り、その活動を強化する。共通課題については全町課題として設定する。など。また「おやし・おふくろの味を強めよう」では、母親は社会教育の機会に恵まれていくが、父親の学習も進められるようになれば格段の成果が発揮できるのでは。父親ひとり自信を持つといってもむずかしいことなので地域の中で学習しては。出席したくてもできない状況をどう解決するかを考えなければ。など。次に「ふるさとを見直そう」では、まず老人から学ぶことが大切。伝承意欲を盛り上げるためにも講習会、実技実習などの計画が必要。郷土の歴史を生活の中で確かめ味わう企画を。青少年による「ふるさと運動」を推進しては。地域の人々の自発的意欲が根本であるので、地域社会みんなの合意と協力のための話し合いが重要。など。

以上のようなことのほかいろいろな実行に移す場合の基本的な案が打ち出されました。

先にも述べましたように、これらの意見や案は地域地域でさらに具体的なものに消化され実行に移されてゆくわけですが、これは決して他人ごとではなくて、どの人も、どの家も、どの地域でもみんなで手を取り力を合わせて、取り組んでゆかなければならない大きく大切な課題であり、積極的な実行が望まれているところです。

さらに一むね16戸完成

小浦 団地 幼児遊園も着工

小浦団地に建設していた昭和五十七年度建設分の公営住宅一むね十六戸が二月末日に完成、町では回覧文書や有線放送でこのことを周知して、二月十七日から三月七日まで入居希望者を募集しました。

完成した住宅は、町が昭和四十七年度から着手した大規模住宅団地計画に基づき、総事業費一億百二十五万二千円をかけて建設したもので、四十七年度の五むね三十戸、四十九年度の二むね四十八戸、五十年年度の一むね



完成した小浦団地公営住宅（写真中央）これに110戸が完成。幼児遊園は川べり

十六戸に次ぐ第四期工事分で九むね目。構造は前年度建設分とはほぼ同じ

で中層耐火四階建て。一戸の間取りは六畳、四・五畳、三畳、台所兼食堂、洗面所（浴そう持込み可能）、便所。

これで小浦団地の公営住宅は百十戸となり、計画（二百戸）の半分以上ができたことになりました。町内の住宅難もこの計画によつて年ごとに解消されると思えますが、それと同時にこの団地も皆さんの協力で日ごと年ごとに住みよい一大団地となるよう願つてやみません。

一方、五十一年度から、小浦団地形成のための一環である「小浦団地幼児遊園工事」が始まっています。

この遊園は団地の方々の福利厚生施設として設置するもので、計画では団地東側の最も狭川河川寄り周辺一、八六八平方メートル、パーゴラ、ブランコ、すべり台、シーソー、ジャンブルジム、プレイマウントなどの遊具（なるべく人工的でないものにする計画）のほか、ベンチ、水飲み場、トイレなどを設備することになっています



赤い屋根、クリーム色のサイド、春の陽に映える白小屋内運動場

白小屋内運動場も完成

社会スポーツもできます

白滝小学校の児童生徒や先生はもちろん、校区内の皆さんが待ち望んでいた白滝小学校の屋内運動場が三月四日に完成、学校体育、社会スポーツの両面で大いに利用されています。

でき上がった屋内運動場は鉄筋コンクリート造り、屋根ダイヤモ

ンドシエル構造平家建てのいわゆるカマボコ型体育館で、建面積は社会スポーツにも使用できるよう長浜小学校の施設とほぼ同じ五二五平方メートルの広さ。バレーコートも一面取れるほか、採光調節のための暗幕や夜間もスポーツができるよう照明機器が設備されています。

白滝小では、これまで屋内施設がなかったため、体育科目は雨天やグラウンドコンディションが悪く場合は実技教育を学科教育に切り

体協Aは3位、サボアも健闘

高校は長高陸上が2年連続優勝

第11回長浜駅伝競争大会

昨年の大会日とは打って変わっての暖かい好天に恵まれた二月二十日、正午スタートで長浜町体育館前から白滝間折り返し二往復・6区間28・8キロを競う第十一回長浜駅伝競争大会は長浜体協主催・愛媛新聞社後援が開かれた

大会には一般の部では、町外から前回優勝した帝人クラブをはじめ強豪西条クラブなど十九チームと、町内からは前回二位の長浜体協Aのほか同体協B、昭和サボア、消防長浜、長浜町果樹同志会、全通長浜、大和青年団の七チームの計二十六、高校の部では町外から帝京第五、町内から長浜の陸上部、野球部、バスケット部の二校四チームが参加、好タイム好記録を競った。

その結果、前回二位の期待の長浜体協Aは前回の自己のタイムを

り替えなければならず、学校体育授業に大きな不便をきたしてしました。一方、長浜町では昭和四十九年から社会体育・スポーツ推進の重要性から、各小中学校施設の最大限の開放を図ってきているにもかかわらず、白滝小には開放する屋内施設がないため校区内の一

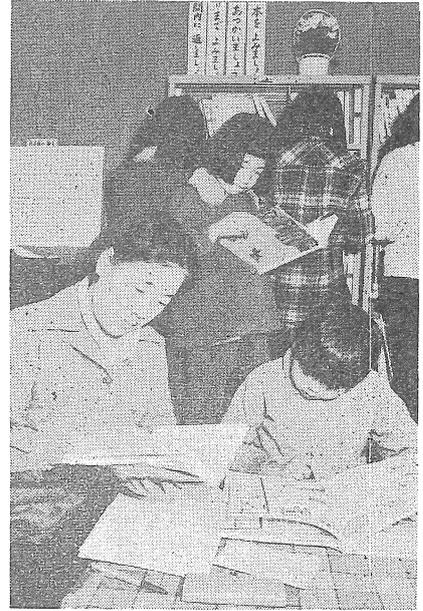
般の人たちは、ときにはやむなく長浜中学校の施設を使用していました。

新しい屋内施設の完成で「これからは思う存分スポーツが楽しめます」という喜びの声が聞かれます。建設事業費四千七百八十六万円。

大会には一般の部では、町外から前回優勝した帝人クラブをはじめ強豪西条クラブなど十九チームと、町内からは前回二位の長浜体協Aのほか同体協B、昭和サボア、消防長浜、長浜町果樹同志会、全通長浜、大和青年団の七チームの計二十六、高校の部では町外から帝京第五、町内から長浜の陸上部、野球部、バスケット部の二校四チームが参加、好タイム好記録を競った。

その結果、前回二位の期待の長浜体協Aは前回の自己のタイムを

かくの大会もフイ。ますますよ



読書を楽しむ子どもたちでいっぱいの上田児童文庫（手前左が上田さん）

ホホー！！

取材に訪問した日も、わずか一時間余りの間に二十五、六人もの子どもたちが次々とやってきて、読みた本をあれこれと探す子、見つかるとそのままたいづ

よい子に人気「児童文庫」

私費で開設 上田スミさん（57歳）

ルの前に座り込んで読みふける子、あるいは備え付けの貸し出しカードにさっさと記入し本をかかえて楽しそうに帰ってゆく子と文庫室は大にぎわい。そんな子どもたちに「いらっしやい」「こんにちわ」「うわあ、いい本見つけたね」と応対に忙しい上田さん。

「自分も主人も読書が大好きなので読書を楽しむ子どもたちがふえてくるのが楽しみ。二度三度と利用回数が増える子どもたちを見るたびに、その子の成長を見るようでとても精らしいですね」という。長い教員生活において子どもたちにかけた夢が延長されているようにもある。「できる限り自

然な形で読書に親しめるように、といたった特に家庭的なふんいきの配慮がズバリ子どもたちを受けているようである。文庫開設の夢はずっと以前からあったというので、すでに昭和四十五年に図書館司書の資格を得ており、昨年の春に小学校教員を退職、その後の人生を考える中で

えであり、座って好きな姿勢で読めるように、といった特に家庭的なふんいきの配慮がズバリ子どもたちを受けているようである。文庫開設の夢はずっと以前からあったというので、すでに昭和四十五年に図書館司書の資格を得ており、昨年の春に小学校教員を退職、その後の人生を考える中で

「新しい本がくるのは自分にとっても待ち遠しい喜び。どれもよい本ばかりです。やはり本は楽しく読めることが第一ですね」とその喜びは語りこそすれ、決して本をそろえる苦労話は求めても触れようとしません。

「あと二十年は続けられるでしょうかね」「できれば親や幼児の読書の輪も広げてゆきたいです」と抱負を語る上田さん。もうすっかり第三の人生の生きがいになっているようである。子どもたちのため、そして自身のためにもぜひ続いて欲しい文庫である。

ふと手にした石井桃子著の「子ども図書館」という本を読んでさらに共感を覚え、文庫開設に踏み切ったという。開庫するに当たっては家が狭くて一時は借家でも考えたそうだが、より自由なふんいきで長続きさせるためにはどうしてもわが家で、しかも制約を受けないよう自費でなければいけません。結局二階に六畳一間の文庫室を増築。また、図書本はとりあえずは百冊でスタート、学校などを通して開設のPRを行い、

い大会となるよう私たち応援者もマナー体得に心がけてゆきたいもの。

表彰***

あんま奉仕など

続けて14年

船津喜久夫さん



長浜三十三区の船津喜久夫さん（五〇）は、愛媛県が五十一年度から新しく設けた「県社会奉仕賞」に選ばれ、二月二十五日松山市の文京会館で開かれた県民たすけあい総参加運動推進大会の席上、白石愛媛県知事から表彰されました。

この賞は、生活環境の美化や自然保護、恵まれない人々に対する援護など、奉仕活動を続けている人々を対象に贈られるもので、船津さんは昭和三十八年一月以来、十四年間にわたり毎月一〜二回、

必ず白滝の老人ホーム白山園を訪問、入園老人にあんまの奉仕をしたり話し相手や相談相手にもなって入園者から感謝されているなど心豊かな町づくりに貢献されていることからこの賞が贈られたものです。

なお、県下の五十一年度の同賞受賞者は十四人四団体。

菊地君ら

善行児童23人

次の児童は、よい行いをしていことで八幡浜教育事務所長から表彰されました。（敬称略）

長浜小学校六年の大津正行、桑本隆司、村橋道明におぼれかかった下級生を助けた。富岡節町営の自転車置場を清掃。

出海小学校六年の和田薫、畑山るみ、五年の小西才治、柴田好文、小西真理恵、三年の橋本治哉、木村康範長期間にわたって夜回りを行ったほか、人命救助の手伝いをした。

大和小学校六年の森岡五月母親の看病と家事に精励している。同六年の大野雄三一家業の手伝いに励んでいる。

豊茂小学校六年の一官利通、菊地勝技登下校時に安全指導を行っている。同六年の菊地繁雄、寺田智、五年の菊地敏宏、四年の菊地晋、三年の菊地哲広、二年の菊地勝利、佐々木志保お堂や集会所の清掃奉仕を続けている。

戒川小学校六年の蔵田ゆかり家事の手伝いと友だちの世話を続けている。（8ページへ続く）



52年度の小・中学生

2.4世帯に1人

52年度の小学新入児

19.9世帯に1人



